

編集

- 藤村響男 ヤマザキ動物看護専門職短期大学 教授, 北里大学 客員教授
- 筏井宏実 北里大学獣医学部獣医寄生虫学研究室 教授

執筆者 (執筆順)

- 深沢英恵 北里大学獣医学部獣医学科獣医解剖学研究室 助教
- 筏井宏実 前掲
- 新島 亮 北里大学獣医学部附属動物病院一般内科 特任助教
- 前田賢一 北里大学獣医学部獣医学科小動物第2外科学研究室 講師
- 田島一樹 北里大学獣医学部獣医学科小動物第2内科学研究室 講師
- 柿崎竹彦 北里大学獣医学部獣医学科獣医放射線学研究室 准教授
- 高橋 優 ヤマザキ動物看護専門職短期大学動物トータルケア学科 助手
- 藤村響男 前掲
- 小林元郎 成城こばやし動物病院 代表
- 齊藤邦史 斉藤動物病院 院長

表紙デザイン：野村里香

本文デザイン：青木隆デザイン事務所 (青木隆)

本文イラスト：青木隆デザイン事務所 (青木隆, 青木福子), 日本グラフィックス



はじめに

国家資格としての愛玩動物看護師が誕生し、獣医療においても獣医師と愛玩動物看護師によるチーム獣医療体制が構築された。チーム獣医療においては動物看護の質を確保し、動物看護の専門性を確立していくために、熟練者の知識と経験にもとづいて行われてきた従来の看護に代わり、誰もがどこでも実践できる科学的に立証された看護、すなわち Evidence-Based Nursing (科学的根拠〔エビデンス〕)にもとづく看護)が求められている。

動物看護と動物看護教育の今後の方向性を見据え、Evidence-Based Nursingに対応し、かつ愛玩動物看護師養成カリキュラムに沿った本書を企画した。

動物看護技術書として個々の看護技術にコツと根拠を記載し、文章での解説に加え、写真や図表を多用するとともに、多くの内容を動画とした。書籍内に示した2次元バーコードからスマートフォンやタブレット端末を用いて確認したい動画に素早くアクセスできるように工夫した。愛玩動物看護師養成施設における実習科目のテキストまたは副読本として活用してほしい。

処置・採血時の手袋着用や個別包装のアルコール綿の使用等、獣医療におけるスタンダード・プリコーション(標準予防策)は施設間において現状では統一されていない。そのため、本書ではあえて統一せず各施設のスタンダード・プリコーションにもとづいて撮影した。

執筆はすべて、教育または臨床の第一線で活躍されている現役の先生方をお願いした。動画の撮影は執筆された各先生方ご監修のもとに実際の臨床施設・現場で行われ、研究室スタッフや現役の愛玩動物看護師にご協力いただいた。おかげで、実習テキストとしての活用のみならず、愛玩動物看護師国家試験受験はもとより資格取得後の臨床現場における日常業務にも役立つ充実した内容となった。既刊の『愛玩動物看護師必携テキスト』と併せて活用することで看護技術と理論を確認することができる。動物看護における Evidence-Based Nursing 実践の一助となれば幸いである。

最後にご多忙のなか快く執筆と動画の撮影を引き受けてくださった先生方、ご協力いただいた各研究室スタッフおよび現役の愛玩動物看護師の皆様に衷心より御礼申し上げる。

また、学研グループ(株)Gakkenメディカル事業部の皆様、特に動画撮影や編集・制作に尽力された編集部黒田周作氏に心より感謝申し上げます。

2024年10月

編集を代表して
藤村響男

Webで見られる付属動画の使い方

●動画でわかる愛玩動物看護技術

お使いのブラウザに、下記のURLを入力するか、右の2次元バーコードを読み込むことで、メニュー画面に入ります。希望の動画を選択し、動画を再生します。または、動画が収録された手技のページにある2次元バーコードを読み込んでください。

※動画に音声は入っておりません。字幕にて適宜解説しておりますのでご参照ください。



https://

- OSのバージョン、再生環境、通信回線の状況によっては、動画が再生されないことがありますが、ご了承ください。
- 各種のパソコン・端末のOSやアプリの操作に関しては、弊社ではサポートいたしません。
- 通信費などは、ご自身でご負担ください。
- パソコンや端末の使用に関して何らかの損害が生じたとしても、自己責任でご対処ください。
- 動画の配信期間は奥付に示すとおりですが、予期しない事情により、その期間内でも配信を停止する可能性があります。
- QRコードリーダーの設定で、OSの標準ブラウザを選択することをお勧めします。
- 動画に関する著作権はすべて(株)Gakkenにあります。

※閲覧環境:

- パソコン
(WindowsまたはMacintosh)
- Android OS搭載のスマートフォン
またはタブレット端末
- iOS搭載のiPhone/iPadなど

メインメニュー

愛玩動物看護技術プラクティス

目次

第1章 動物形態機能学実習	第2章 動物内科看護学実習
第3章 動物臨床検査学実習	第4章 動物外科看護学実習
第5章 動物臨床看護学実習	第6章 動物愛護・適正飼養実習

第1章 動物形態機能学実習

1-3 顕微鏡の取り扱い

2 顕微鏡の適切な操作方法について習得する
顕微鏡の操作

1-3-2-1
顕微鏡の操作

動画の一例

第2章1. 身体検査より

第2章2. 診察補助より

メインメニュー	サブタイトル	動画収録内容一覧
第1章 動物形態機能学実習	3. 顕微鏡の取り扱い 2 顕微鏡の適切な操作方法について習得する	●顕微鏡の操作
第2章 動物内科看護学実習 	1. 身体検査 1 全身状態を評価できる	●意識レベルの評価 ●粘膜色の評価 ●浅在リンパ節評価 ●体重測定 ●BCS評価 ●体温測定
	2 バイタルサインを評価できる	●聴診 ●股動脈圧測定 ●呼吸数の測定 ●CRT測定
	2. 診察補助 1 診察の準備や診察室の衛生管理ができる 2 基本的な保定を実施することができる	●診察台の清掃 ●エリザベスカラーの使用 ●保定の実施と体位変換
	3 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる	●聴診器のつけ方 ●体温計の取り扱い ●注射器の扱い方
	4 採血・採尿(尿カテーテルの挿入を含む)の手順を習得している	●採血の手順 ●採尿の手順
5 薬剤の取り扱い、経口投与・注射の手順を習得している	●経口投与の手順 ●注射の手順	

メインメニュー	サブタイトル	動画収録内容一覧
第2章 動物内科看護学実習 	3. 輸液・輸血に関する技術 1 留置針設置の手順を習得し、準備および補助ができる 2 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる 3 輸液・輸血中の動物を管理できる	●留置針の設置 ●輸液ポンプのセット ●シリンジポンプのセット ●輸液と輸血の管理
	4. マイクロチップに関する技術 2 マイクロチップ装着手順を習得している 5. 生体検査 1 心電図を実施し、結果を記録できる 2 X線撮影のための基本的な保定ができる 3 放射線防護のための装備を正しく扱える 4 超音波検査のための基本的な保定ができる 5 CT検査とMRI検査のための補助ができる 6 神経学的検査の所見を記録できる 7 眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助ができる 8 皮膚検査（掻爬検査、スタンプ検査、被毛検査など）の補助ができる 9 外耳道検査の補助ができる	●心電図測定 ●X線撮影の実際 ●放射線防護衣の着用 ●超音波検査の実際 ●CT検査の補助 ●MRI検査室の様子 ●姿勢反応 ●脊髄反射 ●脳神経の検査 ●知覚の検査 ●眼科検査の保定 ●シルマー試験 ●フルオレセイン試験 ●細隙顕微鏡検査 ●眼底検査 ●眼圧測定：圧平式眼圧計 ●眼圧測定：反跳式眼圧計 ●スクラッチ検査 ●スタンプ検査 ●被毛検査 ●真菌培養の手順 ●ワッド灯検査 ●耳鏡による検査 ●細胞診用サンプル採取 ●オトスコープ検査
第3章 動物臨床検査学実習 	1. 検体検査 1 検体採取・処理の手順を習得している 2 マイクロピペットや遠心分離器を正しく使用できる 4 血液塗抹標本を作製、染色できる 5 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる 6 全血球算定および血液生化学検査を実施できる 8 尿検査を実施し、物理化学的性状を記録できる 9 尿沈渣を観察し、所見を記録できる 10 糞便検査を実施し、虫卵および原虫を検出できる 11 細胞診の準備、補助ができる	●針とシリンジの取り扱い方 ●マイクロピペットの使い方 ●遠心分離器の使い方 ●血液塗抹標本の作製 ●血液塗抹標本の染色 ●血液塗抹標本の観察 ●血液生化学検査とCBCの測定 ●尿検査 ●尿沈渣の観察 ●糞便検査 ●犬パルボウイルス検査キット ●FNA
第4章 動物外科看護学実習 	1. 術前準備 1 手術器具の準備、滅菌ができる 2 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる 3 手術に必要な機器、器械台を準備できる 4 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる 5 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる 2. 術中補助 1 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2 モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる 3 麻酔記録を作成することができる 4 直接補助（器械の受け渡しなど）ができる 5 間接補助（无影灯、保温マットの操作など）ができる 6 歯科器具の取り扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる 4. 救急救命 2 気管挿管を補助できる 3 心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している	●手術器具の洗浄・滅菌 ●ガウンとドレープのたたみ方 ●手術器具や器械台の準備 ●術野の消毒 ●身だしなみ、キャップとマスクの着用 ●外科的手洗い（ラビング法） ●ガウンとグローブの着用（クロード法、オープン法） ●麻酔器の操作 ●心電図モニターの装着と生体情報モニターの監視 ●麻酔記録作成の様子 ●器械出しとオベの様子 ●无影灯の操作 ●歯科処置の補助 ●気管挿管 ●心肺蘇生の手順
第5章 動物臨床看護学実習	2. 入院および栄養管理 1 入院動物の管理、アセスメントができる 2 ケージの清掃、管理ができる 4 栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる	●歩行に問題のある犬についての介助 ●ケージの清掃・消毒 ●チューブフィーディングの手法
第6章 動物愛護・適正飼養実習	1. 動物の基本的な取り扱い 1 動物種に応じた安全なハンドリングができる 2 動物を安全に散歩・運動させることができる 4 基本的なグルーミングを実施できる	●ネコのハンドリング ●安全に散歩・運動させる ●耳のケア ●肛門嚢処置



第1章

動物形態機能学実習

1・運動器／深沢英恵

1. 骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する……………2
2. 骨格標本を用いて代表的な骨を連結する関節を観察し、名称と構造、特徴について理解する……………10
3. 代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する……………15

2・内臓器官／深沢英恵

1. 模型などを用いて代表的な内臓器官の配置について理解する……………20
2. 模型などを用いて生殖器の雌雄差について理解する……………24

3・顕微鏡の取り扱い／筏井宏実

1. 顕微鏡各部位の名称、検鏡条件（倍率など）について理解する……………29
2. 顕微鏡の適切な操作法について習得する……………31
3. 顕微鏡の適切な管理法について習得する……………36

4・組織像の観察／深沢英恵

1. 主要臓器の組織の細胞や構造の特徴について顕微鏡で観察し、理解する……………38
2. 組織像に認められる代表的な構造とその機能について理解する……………46

第2章

動物内科看護学実習

1・身体検査／新島 亮

1. 全身状態を評価できる……………54
2. バイタルサインを評価できる……………63

2・診察補助／新島 亮

1. 診察の準備や診察室の衛生管理ができる……………70
2. 基本的な保定を実施することができる……………74
3. 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる……………79
4. 採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む）の手順を習得している……………84
5. 薬剤の取り扱い、経口投与・注射の手順を習得している……………90

3・輸液・輸血に関わる技術／前田賢一

1. 留置針設置の手順を習得し、準備および補助ができる……………96
2. 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる……………98
3. 輸液・輸血中の動物を管理できる……………102

4・マイクロチップに関わる技術／新島 亮

1. マイクロチップの適切な挿入部位について理解する……………105
2. マイクロチップ装着手順を習得している……………108

5・生体検査

／田島一樹（1, 6～9）・柿崎竹彦（2～5）

1. 心電図を実施し、結果を記録できる……………112
2. X線撮影のための基本的な保定ができる……………117
3. 放射線防護のための装備を正しく扱える……………122
4. 超音波検査のための基本的な保定ができる……………126
5. CT検査とMRI検査のための補助ができる……………129
6. 神経学的検査の所見を記録できる……………133
7. 眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助ができる……………141
8. 皮膚検査（掻爬検査、スタンプ検査、被毛検査など）の補助ができる……………147
9. 外耳道検査の補助ができる……………153

第3章

動物臨床検査学実習

1・検体検査／田島一樹

1. 検体採取・処理の手順を習得している……………160
2. マイクロピペットや遠心分離器を正しく使用できる
……………164
3. 血漿，血清を分離できる……………168
4. 血液塗抹標本を作製，染色できる……………172
5. 血液塗抹標本を観察し，白血球の百分比を算出できる
……………179
6. 全血球算定および血液生化学検査を実施できる
……………186
7. 簡易血清学的検査を実施できる……………190
8. 尿検査を実施し，物理化学的性状を記録できる
……………194
9. 尿沈渣を観察し，所見を記録できる……………199
10. 糞便検査を実施し，虫卵および原虫を検出できる
……………203
11. 細胞診の準備，補助ができる……………210

第4章

動物外科看護学実習

1・術前準備／前田賢一

1. 手術器具の準備，滅菌ができる……………216
2. 手術衣，タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる
……………219
3. 手術に必要な機器，器械台を準備できる……………223
4. 手術台への動物の固定，術野の消毒ができる……………232
5. 手洗い，手術衣や手袋の装着ができる……………234

2・術中補助／前田賢一

1. 麻酔器の各部名称や使用法を理解し，指示に従って
操作できる……………239
2. モニター機器（心電図，血圧計など）を接続でき，術
中監視を行うことができる……………241
3. 麻酔記録を作成することができる……………243
4. 直接補助（器械の受け渡しなど）ができる……………245
5. 間接補助（無影灯，保温マットの操作など）ができる
……………248
6. 歯科器具の取り扱いを理解し，歯科処置（歯石除去な
ど）の補助ができる……………249

3・術後管理／前田賢一

1. 術後の創傷管理（ネット，カラー装着などを含む）が
できる……………253
2. 動物に包帯（粘着性，自着性など）を装着できる
……………255
3. 抜糸の補助ができる……………257

4・救急救命／前田賢一

1. 必要な器材，薬剤を迅速に準備できる……………258
2. 気管挿管を補助できる……………260
3. 心肺蘇生（人工呼吸，心マッサージ）の手順を習得し
ている……………263

第5章

動物臨床看護学実習

1・動物看護過程の実践

／高橋 優・藤村響男

1. 動物看護過程の重要性を理解し，実践に活かすため
に基礎知識を習得する……………268
2. 看護上の問題を理解し優先順位を付け，援助の内容・
方法を立案できる……………278
3. 動物看護計画と動物看護記録を作成できる……………291

2・入院および栄養管理／前田賢一

1. 入院動物の管理，アセスメントができる……293
2. ケージの清掃，管理ができる……298
3. ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる
……300
4. 栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる
……301
5. 褥瘡をもつ動物の看護（体位変換など）ができる
……305

第6章

動物愛護・適正飼養実習

1・動物の基本的な取り扱い

／前田賢一（1，2，4）・小林元郎（3，5）

1. 動物種に応じた安全なハンドリングができる……308
2. 動物を安全に散歩・運動させることができる……311
3. イヌの散歩や運動，ふれあいのために，適切な道具（首輪，胴輪，リード，おもちゃなど）を選択することができる……312
4. 基本的なグルーミングを実施できる……317
5. 動物の飼養環境を適切に整備できる……321

2・飼い主とのコミュニケーション／小林元郎

1. イヌやネコの品種に応じた特徴について説明できる
……327
2. 動物の適切な飼養方法（飼養環境，散歩方法，基本的なしつけなどを含む）について指導できる……331
3. 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる……340
4. 動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる……343
5. 避難所等，災害時の飼い主への支援を説明できる
……345

3・動物愛護管理行政／小林元郎

1. 動物愛護管理センターの活動を理解する（動物愛護管理センターへの見学などを含む）……348

2. 動物取扱業へ指導すべき内容について理解する
……351
3. 動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる……356

第7章

動物看護総合実習

1・概要／齊藤邦史

1. 臨地実習において愛玩動物看護師としての役割と責任ならびに実務能力を習得する……360

2・動物看護業務の理解／齊藤邦史

1. チーム動物医療における愛玩動物看護師の役割を理解する……363
2. 動物診療施設を見学し，設備や機能を理解する
……365
3. 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する
……368

3・動物看護業務の体験／齊藤邦史

1. 診察室における動物医療補助行為を体験する……370
2. 各種検査や処置，外科手術の補助を体験する……372
3. 入院動物の看護を体験する……374
4. 動物の家族との適切なコミュニケーションを体験する
……376

4・動物看護業務の実践／齊藤邦史

1. 実際の動物診療施設で，診察室における診療の補助を実践する……378
2. スタッフと連携協働し，チーム動物医療を実践する
……381
3. 動物看護計画を立案し，実践する……383
4. 動物の家族に対し適正飼養および療養生活の指導を実践する……388